

ことばの広場

校閲センターから

「真田丸」の「丸」って？

NHKの大河ドラマ「真田丸」が佳境です。大阪市天王寺区に今年建てられた「真田丸顕彰碑」には、真田信繁（幸村）が大坂の陣の際に徳川方の攻撃に備えて築いた出城の真田丸が半円状に描かれています。

なのになぜ「丸」というのでしょうか？ 公益財団法人日本城郭協会理事の加藤理文さんにうかがいました。

城内で区画されたひとつの区域は「くるわ」と呼ばれていました。くるわとは一定の地域をその周囲と区別するために設けた囲いのことです。中世には「曲輪」、近世になり「郭」とも書かれました。くるわとは丸いものだという考えから、近世の城では「丸」があてられるようになったようです。

これが城内の建造物にも使われます。最も主要なものなら「本丸」、西の方にあれば「西の丸」。城内から外に向けて造られると「出丸」。つまり、丸いから丸というのではないのです。真田が大坂城の南に突き出

真田一族を「船」に例えて

すように築いた出丸なので「真田（出）丸」となったと思われるとのことでした。

ところで、ドラマの作者・三谷幸喜さんは本紙連載のエッセーで「『真田丸』は、信繁が築いた砦の名前だが、真田一族を、戦国という海を渡る船に例えてもいる」と書いています。

「丸」は「まる（麻呂）」が変化したもので、種々の名称の語末の構成要素として、「人名、特に幼名」「刀・楽器、その他の器物」「船の名」などに用いられると「日本国語大辞典」にあります。名前に付けることによって親愛の意を表したりもします。

第9管区海上保安本部の『海の豆知識』―海の相談室編―によると、船に「丸」を付けて呼ぶ習慣は古くからあり、日本人が海外に盛んに乗り出すようになった室町時代には多くみられるそうです。外国では、日本船を「マルシップ」と呼んだりもしています。

（岡田宏康）